
ユカリ

シャー芯

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユカリ

【Nコード】

N3446K

【作者名】

シャー芯

【あらすじ】

前向きで、ポジティブで、人気者。

それが、私の座右の銘？

「笑顔がスゲエかわいい」

ありがとう、そう言いながら涙止まらない。

その笑顔は私じゃない。

卑屈で、寂しがりやで、素直にならない。

それが私なんだよ。

「やさしくて、明るくて、本当にいい子」

やめてよ、それは私じゃない。

ユカリだよ、全部。

みんなの好きな私はユカリの方なんだ。

11ぐらいの時だった。

生まれて初めてヒトの遺体をみた。

心臓がパンクしそうになって、

うつん、パンクした。

頭の中の白がゴナゴナに碎けて、

いろんな思い出が心臓に突き刺さる――

そんな感覚に襲われた。

あの時からだったね、ユカリ。

わたしは殆ど灰色の水の中。

ぼんやりと外の景色を眺めるしかできない。

つい、最近。

3つの遺体をみた。

わたしは灰色の水の中からだから、よくわからなかった。

でも、ユカリが泣いていたのは知ってる。水が震えていたから。

わたしはユカリに比べたら駄目だと思う。でも、頑張るからね。

だから、ユカリは少し休んでて良いんだよ。わたしもユカリになる。

大丈夫だよ、ずっと見てたから。

ユカリがいつでも戻ってこれるように頑張るよ。

正直ユカリのことあんまりよく思ってた。月が空のてっぺんにのぼった頃、

ユカリは眠って、わたしは起きる。

やりたいこといっぱいあるのに、

身体はひとつだから、いつもクタクタで、横になって眠るだけ。

ユカリだけずるい、好きなこといっぱいやって。友達いっぱいつくって……。

卑屈な私、なりたいたいけど成れないから。

ひとつの命に生まれたもうひとつのいのち。

雨と風がやけに強い昼下がりに。

リモコンの電源ぼちって押して、なんでだろ？ すごい懐かしい音が聞こえてくる。

胸が高鳴って、点いたテレビ画面がにじんで見える。「バトンタッチ」 ポンって、背中押してくれた。

ユカリ。 ごめんね、逃げてばかりだった。

灰色の水の中、ユカリがくれた気持ち、思い出、記憶。
見つけ出して抱きしめる。

さようなら、いままでありがとう。

- - ユカリ。

懐かしい、懐かしい、春の日差し……
今日このごろ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3446k/>

ユカリ

2011年1月25日23時44分発行